

学校教育目標	「自ら考え、人とつながり、未来をつくる永谷の子」				
	○基礎・基本を身に付け、自ら問題を発見し、よりよく解決する力を育てます。(知) ○自信をもち、よいよい生き方について深く考えて行動する力を育てます。(徳) ○自ら健康を保持増進し、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ○自分の役割や働くことの意義を理解し、自ら考え行動する力を育てます。(公) ○自分を見つめ、多様性を尊重し、価値観や背景の異なる相手と共生する力を育てます。(開)				
学校概要	創立 46 周年	学校長 平野 好子	副校長 菅原 明子	2 学期制	一般学級: 14 個別支援学級: 2
	児童生徒数: 470 人	主な関係校: 上永谷中学校 永野小学校			

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <問題発見・解決能力> <言語能力>	上永谷中学校 永野小学校 永谷小学校	自尊感情を育み、主体的に学び、社会とつながる児童・生徒の育成 ・児童生徒理解研修を行い、児童生徒の特性や指導方法について情報交換する。 ・ブロック合同授業研究会を行い、9年間で育てたい資質・能力についてより具体的に共通理解したり、つながりを意識した指導計画を立てたりする。 ・小学生の授業見学や部活動体験、中学生の小学校でのボランティア活動、中学校教員による小学校での派遣授業等、職員や児童生徒の交流を進んで行う。

中期取組目標	○自尊感情を育み、主体的に学び、人とつながる児童を育成します。 ・「主体的に学び、自信をもって表現する子どもの育成」をテーマに研究と実践を進めます。 ・一人ひとりの自尊感情を高め、子どもが素直に自分自身を振り返ることができる風土をつくります。 ・健康や運動への関心を高め、子どもがよりよい生活習慣を身に付けるための取り組みを推進します。 ・特別活動や総合的な学習の時間を中心に、子どもが役立つ喜びを感じられる活動をつくります。 ・個性や考え方を尊重し合い、共生するよさを実感できる活動をつくります。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①外国語を通して、相手の話を共感的に聞いたり受け止めたりするなど、コミュニケーション力を高める授業展開の工夫をすることで、子どもが自信をもって自分の思いを伝えられるようにする。②個を丁寧に見取り、実態に応じた教材を活用し、基本的な知識・技能の定着を図る。
豊かな心	①道徳科での本音で語り合う授業を通して、互いを認め合って、よりよい人間関係を築いていくとともに、約束やきまりの意義を理解してよりよい社会を築こうとする心情を育てる。②縦割り活動を通して、ともに学び合い、認め合って行動しようとする心と態度を育てる。
健やかな体	①体育科の授業や体育行事、キラキラタイムを通して、運動の楽しさに気付き、自分の体力を高めるために工夫して体力を向上しようとする意欲をもてるようにする。②学校保健委員会の目標である「けがの防止」に向けて、防げるけがを減らすことができるようクラス委員会で掲示や呼びかけを行う。
特別支援教育	①特別支援校内委員会とは別に特支Coで組織される特別支援教育推進委員会を設立し、推進校モデルにしつつ児童たちの多様なニーズに応えられる特別支援教室の基本方針を固める。②校内委員会での活動を充実させ、職員たちのニーズを汲み取り、有効な研修について考え企画実施していく。
児童生徒理解	①研修や学年研等での日々の起きることの職員間の情報共有・意見交換を積極的に行っていく過程を通して、子どもたちの心に寄り添いつつ、子どもの将来を見据えた指導観の共有を目指す。②一つ一つの手順についてチームで確認することで、子どもたちの成長につながるような対応を行う。
地域連携	①各教科等の学習の中で、児童が地域の人々や環境に目を向け、地域をよりよくするために主体的に働きかけようとする意欲を高める。②地域に対して日々の教育活動が明確に伝わるように、学校だよりや活動の様子について掲載していく。
安全管理	①児童の登下校中や在校中における緊急災害時の対応マニュアルを実態に即したものに改善しながら、有事の際に児童も職員も円滑に遂行できるようにする。学校職員が組織で対応し、児童が安心して学校生活を送ることができるように組織形態を明確化していくことを努める。
ICT活用	①各教科等の学習の中で、具体的かつ、体験的に育む手立てを講じ、主体的に考え、他者と協働しながら新たな問題の発見・解決に取り組むことができるようにし、児童の情報活用能力を育成していく。②授業中での情報機器活用だけでなく各家庭と連携しての活用も推進する。
いじめへの対応	①「いじめ防止対策基本方針」を確認したり、防止対策委員会にて各月の案件について考えたりすることで、全職員でいじめの問題についての感度を高める。アンケートも実施し、把握に努める。②職員で対応方針を共有し、学校児童・保護者・地域に本校のいじめ問題についての考え方を発信していく。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①各部、委員会の業務内容を分類整理して大きなグループを作り、教務が各グループを統括できるようにする。②経験年数10年以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、授業力・学級経営力を高める。
担当	①教務 ②メンター